

収録資料

《徴兵検査と兵營生活のために》

織田小三郎編「軍隊生活早わかり」(織田書店・1927[昭2]年)
青木袈裟美編「徴兵検査研究録」(陸軍軍医団・1928[昭3]年)
渡邊寛(陸軍歩兵大佐)・田淵義雄(前兵事官)「徴兵適齢者軍人志願者兵事便覧」(松華堂・1931[昭6]年)
松浦徳一(福山連隊区司令部内)「学生ト兵得」(1933[昭8]年)／収録版1935年第8版
札幌聯隊区徴兵官「昭和十二年徴兵検査心得」(1937[昭12]年)
藤谷芳長「最新歩兵須知 全」(兵書出版社、藤谷崇文館・1937[昭12]年)／収録版1939年改訂増補55版
佐々木一雄(陸軍大佐)「戦時入營軍隊素養試験必携 模範解答附」(陸軍壯丁教育会・1939[昭14]年)／収録版1940年改訂版
森本富蔵編「昭和十六年検査より除隊まで 戦時壯丁宝典」(陸軍壯丁教育会・1941[昭16]年)／収録版同年2版
齊藤市平(陸軍少佐)「軍人勸諭早わかり」(尚兵館・1942[昭17]年)／収録版同年25版

《軍隊教育を担う将校・下士官のために》

山崎慶一郎(陸軍大尉)編著「内務教育の参考」(琢磨社・1933[昭8]年)／収録版1941年147版
鷹林宇一(陸軍歩兵大尉)編「軍隊内務教育の参考」(川流堂・1936[昭11]年)
武揚社出版部編「内務班長実務の参考」(同部・1935[昭10]年)／収録版1940年増補第11版
齊藤市平(陸軍少佐)編「軍隊精神教育の参考」(尚兵館・1940[昭15]年)
《陸海軍志願兵・少年兵のために》
飛行家志願者後援会「海軍陸軍少年航空兵志願宝典」(同会・1935[昭和10]年)
帝国文武学会編「合格準備海軍各志願兵試験問題集と模範解答」(附志願案内) (同会)／収録版1939年訂正3版
山口菟貴(海軍機関少佐)「海軍各志願兵徴募兵入団須知と訓練講義」(帝国文武学会・1938[昭13]年)／収録版1941年三訂11版
鈴木英夫(陸軍中尉)「陸海軍少年兵志願者読本」(希望の窓社・1943[昭18]年)
旺文社編「海軍への道」(同社・1944[昭19]年)／収録版同年2版
海軍協会「指導者用海軍志願兵参考書」(同会)／海軍省人事局監修、1944[昭和19]年)

《前線への慰問文・式辞挨拶のために》

北村重治編「海軍軍人書簡文 海の便り」(武揚堂書店・1935[昭和10]年)／収録版1942年第6版
宮下丑太郎編「戦時下に於る式辞挨拶手紙模範集」(雄弁新年特大号附録) (大日本雄弁会講談社・1939[昭14]年)
樋口紅陽(軍人)と銃後の祝辞演説と挨拶の仕方 (岡村書店・1939[昭14]年)
勸学園同人編「昭和模範慰問文」(文貴堂・1940[昭15]年)／収録版同年10版
本村長峯「兵隊さんに送る女子慰問文」(元文社・1941[昭和16]年)
留守信綱編「最新大東亜戦慰問文」(天泉社・1942[昭和17]年)
留守信綱編「最新戦時女子慰問文」(天泉社・1942[昭和17]年)／収録版同年2版増補

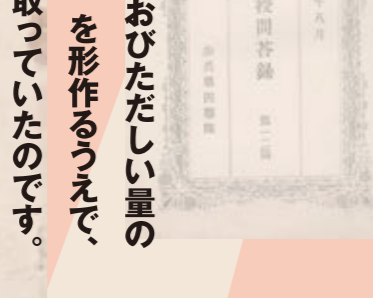
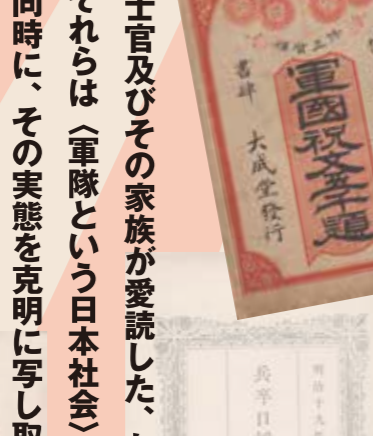
《留守家族・前線将兵のために》

松本治一郎「応召出征兵士家族救済活動案内」(発行人北原泰作・1937[昭12]年)
厚生省「軍事援護早わかり 勇士の出征から帰還まで」(国民精神総動員中央連盟・1938[昭13]年)
長野県「婦人相談員必携」(同県・1944[昭19]年) (ころ)
大本営陸軍部「従軍兵士ノ心得 第一号」(同部・1938[昭13]年)
大本営陸軍部「従軍兵士ノ心得 第二号(軍紀風紀ニ就テ)」(同部・1938[昭13]年)
大本営陸軍部「従軍兵士ノ心得 第三号(陣中勤務)」(同部・1939[昭14]年)
陸軍省「改訂 戦疫将兵の遺族の為に」(同省・1939[昭14]年)
陸軍省情報部「改訂版輝く帰還兵のために」(同部・1939[昭14]年)
臨時東京第三陸軍病院「退院時指示要項」(同病院・1941[昭16]年)
大本営陸軍部「これだけ読めば戦は勝てる」(同部・1941[昭16]年)
海軍省「復員将兵心得」(同省・1945[昭20]年)
第一復員省「外地復員軍人ノ一参考」(同省・1946[昭21]年)
引揚援護庁「復員局留守業務部」死亡認定の参考 (同庁、同部・1952[昭27]年)

近代 軍隊教育・生活

マニユアル資料集成

《全2回配本》



☆近代日本の陸海軍兵士・下士官及びその家族が愛読した、おびただしい量のマニユアル教科書の数々。それらは「軍隊という日本社会」を形作るうえで、国民に多大な影響をあたえ、同時に、その実態を克明に写し取っていたのです。
☆既存類書に精通した研究者により厳選された本資料集は、近代史・教育史の研究資料としてはもちろん、身体や主体のありかたをめぐる新しい文化研究にも有用な、画期的な内容となっています。

第1回配本★明治・大正編

一ノ瀬俊也 (埼玉大学教授) 編集・解説

全7巻・総4566頁・菊判上製・別冊解題付
全巻セット定価(本体190,000円+税)(分売不可)
ISBN978-4-7601-3676-6

お薦め先
歴史学、教育学、社会学、政治学、経営学、経済学などの研究者、研究機関

柏書房

近代日本 軍隊教育史料集成 (全12巻)

高野邦夫編集

B5判上製函入 総5496頁・別冊解題付
セット定価(本体300,000円+税)

陸士に海兵、絶大な権力をふるった、帝国陸海軍将校を育成するための教育制度を紐解く未公刊史料集。

■編者略歴

一ノ瀬俊也……1971(昭46)年福岡県生れ。九州大学文学部史学科卒、同大学大学院比較社会文化研究科博士課程中退。博士(比較社会文化)。現在、埼玉大学教養学部教授。主な著書に、「近代日本の徴兵制と社会」「銃後の社会史」吉川弘文館、「戦場に舞ったピラ」『皇軍兵士の日常生活』講談社、「旅順と南京」文藝春秋、「明治・大正・昭和 軍隊マニユアル」光文社、「宣伝謀略ピラで読む、日中・太平洋戦争」柏書房などがある。

発行

柏書房

〒113-0033 東京都文京区本郷2-15-13
Tel.03-3830-1891 Fax.03-3830-5337
URL <http://www.kashiwashobo.co.jp>
E-mail eigy@kashiwashobo.co.jp

取扱店

入隊から除隊まで、規律を求めた軍隊教育及び生活の驚くべき多様性と変遷。 逃れられない徴兵を前にして垣間見える、国民の建前と本音の数々。

《本資料集の特長》

☆ 若手ながら近代日本の軍隊研究者としてすでに実績を積んでいる一ノ瀬俊也氏が、長年収集した夥しい軍隊関係マニュアルの中から、それぞれの傾向と対策を代表する種類をテーマ別・教育・生活・時代順に厳選し編集。

☆ 原本を2面付で印刷しており、原本の総ページ数換算では、約9000頁と膨大な量を収める。

☆ 入隊から除隊までの流れ、手紙の書き方・演説の仕方から、恩給の申請まで、ありとあらゆる内容を扱ったマニュアルから、普通の国民が体験した「軍隊」が本当によく分かる。また、貴重な海軍マニュアルも一部収録。

☆ 徴兵忌避のススメや体罰の実態など、大日本帝国憲法下においては、市井に簡単に触れにくい情報とされていた事柄が、じつは意外と普通に知られて

いたことが分かることも画期的。

☆ 明治大正の一般国民を読者対象にしたマニュアルのため、表現が懇切丁寧であり、漢字には多くルビ（読み仮名）が振ってあり、図解も多い。つまり、今日の学生でも「読める」原資料である。

☆ 原本の多色刷頁は原則として、原色を再現。図書館のマイクログリフ・フィッシュやマイクログリフ・フィルムでは全く分からない細部や色彩もよく分かる。

☆ これら軍隊マニュアルは、大学図書館には系統だっってほとんど収蔵されていない。なぜなら、現代の学習参考書や入学案内、教科書ガイドと類似の扱いになるため、大学図書館の収蔵対象にはなりにくく、また、学校教科書や辞書・参考書のように復刻対象にもなりにくかったからである。

★第1巻

《徴兵逃れのために》

稲葉永考編『徴兵相当免役早見』(目録巻1879明12年)

もともと初期の免役事項解説書。

金井壽繼・竹内信一編『改正徴兵免否要録 付願届書式』(報告社1881明14年)

徴兵令運用に関する各府県からの伺と陸軍省の指令がとくに貴重。

『改正註解徴兵令 全 付免否一覽』(開成社1884明17年)

1883(明16)年の徴兵令改正に対応。

『徴兵令註解 全』(1889明22年)

1889(明22)年の徴兵令改正に対応。収録版、同年増補再版

《連隊独自の教育書》

歩兵第六連隊(名古屋)作成『兵卒必携 第二編』

同『兵卒必携 第一編』(共に1883明16年)

明治10、30年代にのみ作成された連隊独自の教科書の1冊。

現場必須の習得事項が分かる。フランス式。

歩兵第四連隊(大阪)作成『兵卒口授問答録 第二編』(1886明19年)

これもフランス式の教科書。

歩兵第二六連隊(新発田)作成『歩兵卒問答書』(1899明32年)

普法戦争のドイツ勝利やフランス式の不備から、ドイツ式への移行期が見て取れる。



『徴兵相当免役早見』冒頭。威張った風の官吏が時代を表す。

★第4巻

《軍隊に関する手紙の書き方・挨拶の仕方①》

相澤富蔵著『軍人文鑑 全』(厚生堂1888明21年)

最初期の同種のマニュアルで、すでに清国との戦闘を想定した内容。

伊東洋二郎著『修正増補 軍国祝文五千題』(大成堂1894明28年)

市町村の戦死者葬儀・顕彰の実態がよく分かり、地域共同体が戦争を支えていく過程が見える。

収録版：1904(明37)年12月第5版

大澤勇著『兵卒須知 軍隊文範 全』(中村鍾美堂1901明34年)

平時における軍隊生活に関わる模範文例が多いのも特徴。

脇田休次郎『軍港堂編纂部』著『軍人文範』(軍港堂1901明34年)

海軍将兵用で、海軍独自の詳細な手続きも反映されている。

★第5巻

《軍隊に関する手紙の書き方・挨拶の仕方②》

莫越庵主人著『軍人演説軌範』(澤書店1902明35年)

図入りで効果のある演説法を伝授。収録版：1903(明36)年4月再版

河村定静著『軍人送迎 祝辞弔祭慰問文範』(大学館1904明37年)

日露戦争の出征及び凱旋用のもので、口語体模範例がこのころから現れる。

河村定静著『軍人送迎慰勞 凱旋祝辞答辞文範』(大学館1905明38年)

同じく日露戦争用。民衆の軍隊のとりえ方も反映されている。

牛尾龍水『歩兵大尉』著『軍人の手紙』(大成堂書店1918天7年)

実際の出征や戦死が非日常となった時代のおだやかめの内容。

★第6巻

《国民が兵営の様子を知るために》

神州清士著『五色染分 陸軍模様』(武揚堂1899明32年)

徴兵から除隊までの陸軍生活を物語風にして解説。

軍隊への批判も読み取れる。

富田能次編『帝国海陸 軍人画話』(文陽堂1899明32年)

陸海軍兵営内部の様子をイラストで解説したもの。

『陸軍事情 兵営画話』(文陽堂1899明32年)

陸軍兵営内部のイラスト解説。

覆面の記者著『兵営の告白』(青山堂1908明41年)

日露戦争後の兵営生活裏面暴露本。収録版：1910(明43)年6月4版

覆面の記者著『兵営の黒幕』(厚生堂1909明42年)

同じく体罰や贈賄や売春などの実態を描く。収録版：1910(明43)年6月4版

金子文軒選『軍人文集 全』(帝國軍事協会出版部1910明43年)

隊内兵士が市販の雑誌『文武』に投稿した作文とその批評をセレクトしたもの。

収録版：1918(大7)年6月第15版

太田政之助著画『第二編 ペン画の上等兵』(天橋書房1921天10年)

第一次大戦後のペン画生活記。古兵のリンチの様子もあり。



『ペン画の上等兵』に描かれた、兵営内の私的制裁図。

★第2巻

《市販の軍隊教科書①》

相澤富蔵編『兵役者心得』(厚生堂1886明19年)

現役兵・予備役兵などが身上異動の際に提出すべき書類の書式解説書。

知らぬと損する情報。も整備。

河合源蔵編『改正 兵卒教程 一』(有則軒1887明20年)

内務や軍制の解説書で、『軍隊内務書』に準拠。

山本松太郎編『軍人自戒』(有則軒1890明23年)

兵士の視点に立った、歩兵第二連隊(佐倉)将校による精神教育講和集。

上野勳次郎編

『改正増補再版 歩兵軍事一班 卷之一・卷之二合本全』(有則軒支店1892明25年)

兵卒が銘記すべき、内務と戦闘の一般的知識を解説。

井戸田市太郎著『歩兵応用 軍隊学教程』(金城堂1901明34年)

日清戦争による兵卒の士気低下が反映された内容。

松枝新一『海軍大佐著

『海軍生活案内 全 付入回者心得』(博文館1906明39年)

日露戦争直後の海軍兵士の日常が分かるマニュアル。

清水連城編『四十一年式 歩兵教科書』(明治図書1908明41年)

日露戦争後発布の『歩兵操典』に準拠したもので、精神性を強調。

★第3巻

《市販の軍隊教科書②》

厚生堂編集部編『歩兵教程』(厚生堂1911明44年)

「俘虜取り扱いの心得」では、捕虜禁忌の心得が加えられている。

竹下精次郎著『改正 歩兵須知 全』(武揚堂書店1923天12年)

第一次大戦後作成、陸軍の装備近代化の遅れが意識された内容。

三澤活水『陸軍歩兵大尉』著『入営者準備教育 全』(兵事雑誌社1913天2年)

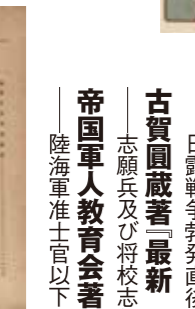
「良民即良兵」の主張に沿った内容で、陸軍の宣伝でもある。

筒井清芳『陸軍輜重兵特務曹長』著『在郷軍人の為に』(帝國在郷軍人教育会1921天10年)

総力戦に備えたマニュアルで、膨大な諸規則を収める。収録版：1925年9月増補改訂58版



兵営における体罰の様子をイラストにした市販暴露本。



「不良兵の教育」の章など、社会福祉の観点からも貴重な『初年兵之教育手段』目次。



明治末期の「新聞配達夫」や「牛乳配達夫」の具体的業務内容まで分かる、平民のための職業ガイド。